

アニメーション映画におけるジェンダー表現の変化に関する研究  
— ディズニー・長編アニメーション及びディズニー・ピクサー長編アニメーションに  
焦点を当てて—

社会福祉学科 臨床福祉系 観世悠希

本研究は、アニメーション映画の中で描かれるジェンダー表現の変化の過程を分析し、映画公開時の社会的風潮などと照らし合わせることで、アニメーション映画と社会との関係性の変化の過程を明らかにすることを目的とした。分析の結果、第一期「女らしさ」を有する男性キャラクターの登場、第二期「男らしさ」を有する女性キャラクターの登場、第三期セクシャルマイノリティの登場、と時代を追うごとにジェンダー表現が変化していることが分かった。そして「強い女性像」や「セクシャルマイノリティ」などの新しい価値観と古い価値観が重複する期間があり、古い価値観から新しい価値観へ段々と変化していくと考えられた。また、セクシャルマイノリティの登場の際には、価値観を含まないニュートラルな表現が採用されていた。こうした表現は、社会から肯定されている感覚を当事者に与えることができ、差別や偏見からの解放にも繋がると考えられる。